

# 大垣市都市再生整備計画事後評価委員会 議事録

1 と き 平成29年11月29日（水）15:50～18:05

2 と ころ 大垣市役所 1階 第4会議室

## 3 出席者

（大垣市都市再生整備計画事後評価委員会委員）

委員長 西村 貢（岐阜大学地域科学部教授）

委員 大野 栄治（名城大学都市情報学部教授）

委員 高崎 豊（（公社）日本技術士会中部本部岐阜県支部 元幹事）  
（事務局）

大垣市企画部地域創生戦略課 渋谷課長、宮内主幹、中村主事、安藤主事

大日コンサルタント(株) 横井、伊藤

（傍聴人）

なし

## 4 議事要旨

### (1) 委員長の選出

### (2) 大垣駅周辺地区

① 都市再生整備計画事業の概要説明

② 事後評価手続き等にかかる審議

③ 今後のまちづくりについて審議

### (3) 中山道赤坂宿周辺地区

① 都市再生整備計画事業の概要説明

② 事後評価手続き等にかかる審議

③ 今後のまちづくりについて審議

## 5 議事録

### (1) 委員長の選出

#### 【事務局（宮内）】

これより、議題に入らせていただきます。

委員長の選出でございます。資料No.2のとおり、委員会の設置要綱を付けておりますが、その規定によりますと、委員長の選出にあたっては委員の互選となっております。どのような方法で選出させていただいたらよろしいか、お聞きしたいと思います。

#### 【高崎委員】

市のほうに案がありましたら、お聞かせいただければありがたいのですが。

#### 【事務局（宮内）】

ただいま、市のほうで案があったらというご発言がありました。そのようにさせていただいてよろしいでしょうか。

（委員「同意」）

#### 【事務局（宮内）】

ありがとうございます。それでは、誠に僭越ではございますが、委員長に、岐阜大学地域科学部の西村教授様を推薦したいと存じます。よろしいでしょうか。

（委員「同意」）

#### 【事務局（宮内）】

それでは先生、委員長席にお願いします。

これよりの進行につきましては、委員長の西村先生に議長を務めていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

#### 【委員長】

それでは委員長を務めさせていただきます。スムーズに議事を進行してまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

## (2) 大垣駅周辺地区

### 【委員長】

議事次第に従ってお願いしたいと思います。次第の5「議題」の「(2) 大垣駅周辺地区 ① 都市再生整備計画事業の概要説明」について、事務局の説明を受けた上で、皆さんにご協議いただきたいと思います。それでは、よろしくお願ひします。

### －説明省略（都市再生整備計画事業の概要）－

### 【委員長】

ただいま説明のあった事業概要について、何かご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは議事を進行させていただいて、結果としてどうしていくのかというと、様式2の最後のページが空白になっていますよね。この空白を、皆さんのご意見に従いながら埋めていくというのが最終目標になります。

### 【事務局（中村）】

資料No.4の様式2の20ページですね。

### 【委員長】

20ページですね。ここを埋めていくこととなります。この項目を順次確定させていくという作業です。よろしいでしょうか。

どういうことを記載するのかという事例は、参考資料として、以前行われたものが添付されているのですが、例えば「方法書」についてできているとかできていないとか、そういう文言を、皆さんと協議して決めて、順次記載していくということになります。その作業をする上で、「事後評価手続き等にかかる審議」と「今後のまちづくりについて審議」の大括りの2つの項目がありまして、大括りの内部にある、「方法書」などの小項目に沿って報告してもらい、協議の上、意見などを確定させていただくということになります。

それでは、お願ひします。

### －説明省略（方法書）－

### 【委員長】

これに問題があるかどうかということですか。

**【事務局（中村）】**

そうです。

**【大野委員】**

この方法自体に問題があるのかどうかということですか。これに従ってやりました、という確認ですか。

**【事務局（横井）】**

「方法書」に沿って適正に実施したか、という確認です。

**【委員長】**

文言を確定しないといけないね。

**【事務局（中村）】**

各項目の説明と意見協議をさせていただき、最後に総括ということで、各項目の審議結果にかかる文言、記載内容を決めていただいても結構です。

**【委員長】**

そうですね。

では続きまして、説明をお願いします。

－説明省略（成果の評価）－

**【委員長】**

このアンケートを実施した場所はどこなの。

**【事務局（中村）】**

アンケートの実施場所ですが、従前値と同様の方法・場所にて実施することとなっておりますので、従前値と同様に3種類のアンケートを実施しております。1つがイベント参加者に対するアンケート調査、もう1つが通行者アンケート調査、最後もう1つが来庁者アンケート調査でございます。

イベント参加者アンケート調査につきましては、9月2日の「おおがき芭蕉楽市」というイベントにおいて、奥の細道むすびの地記念館内と住吉橋前にて、イベントに参加される方々を対象に調査を実施しました。

通行者アンケート調査につきましては、9月9日土曜日の10時から15時、計測時間ももちろん合わせているんですが、金蝶ビル前東・駅前のにしき前・ヤナゲン大垣本店さんの前・武藤酒店さんの前で実施しております。

来庁者アンケート調査につきましては、1か月間、市役所1階ロビーにアンケートを留置式で設置しまして、来庁された方に回答していただきました。

このアンケートにて、指標1と指標3の従前値と評価値を求めています。

**【委員長】**

このアンケートの中に、指標1「駅周辺利便性満足度」と指標3「地区内公園の利便性満足度」を求めるための項目が入っているということですか。

**【事務局（中村）】**

そうです。

**【委員長】**

アンケートの総数が一緒というのは、そういう理由ですか。

**【事務局（中村）】**

そうです。同じアンケートの中に、指標1と指標3を求めるための項目が入っているということです。

**【委員長】**

同様の質問で、指標2「歩行者及び自転車通行量」の調査時期はいつ。

**【事務局（中村）】**

従前値も5月の中下旬に調査しておりますので、評価値は5月20日の土曜日、10時から19時までの9時間調査という形で、従前値と同様に調査をしました。

**【委員長】**

土曜日にやっているんだね。

**【大野委員】**

それにしても少ないなと思って。統計学上の信頼性からいくとかなり少ないですね。通行量だけをみても、1日10,000人ぐらいが見込めるわけですよ。

### 【委員長】

そうですね。

### 【大野委員】

ですからそれだけを見ても、(アンケートの回答総数が) 100に満たないというのは少ないかなと。これで分析してしまったので、今さらどうしようもないんですけど。今後調査をやられる時に、望ましいのは500ぐらい。少なくとも200は欲しいなど。国交省が、事業評価をするときにもアンケート調査をするならば300を確保してください、とっていますから。単に統計的な有意性が担保されるかどうかという話ですので、もしかするとこれでも平均は同じかもしれませんが。統計学上の問題だけです。

もう1つ気になったのは、指標2の「歩行者及び自転車通行量」の調査した場所ですけれども、事業を実施した場所と関係があるのかどうかということ。道路の整備、カラー舗装とか、公園の整備とかをされているんですけど、そこあまり関係がないところで調査をされているような気がするんですが。これは別に構わないんですか。

### 【事務局（中村）】

都市再生整備計画というものが、もともと1つのパッケージでまちづくりをしていこうというものなので、地区全体を計画区域として定めまして、(計画区域の) 賑わいを創出するためにどのような事業が必要かというところで、事業を実施させていただいたという中で、全ての事業が、都市再生整備計画の目標を達成するために必要な事業ということで選定して実施をしておりますので、通行者の方とかが、(調査実施箇所においては、計画区域の) 入口といいますか、そちらを通られて、事業を実施したところとかを含め、中心市街地内を回遊されるというところで、関連性はもちろんあると考えております。

### 【大野委員】

(資料No.3) スライド30、場所によって、もちろん増減はあるんですけども、これが整備による影響なのか、そもそもこの場所の特性なのかというところがちょっとよくわからなくて。例えば、金蝶駅ビル前東は大きく減っているわけですね。駅から通りをみて、西側は減っていて、東側は増えているんですよ。工事中だというお話がありましたが、そうすると、整備の影響ではなくて、たまたまそこが工事をやっていたり増えているとか減っているとか、あるいはお店がイベントをやっていたから増えているとか。整備事業の影響なのかなという

ところが、増減の要因が。

**【委員長】**

金蝶ビル前の西側のところで工事しているんですよ。

**【事務局（中村）】**

そうです。今ですと、広場の整備をしています。

**【委員長】**

当然工事をしていない側を通りますよね。だから、そう思えば、金蝶ビル前東が減って駅前にしき前が増えているということは、要するに、西側を歩いていた人が東側を歩いたとか、そういうことですよね。

**【事務局（中村）】**

そうです。ですので、全体で評価の数値をみたときに、地区自体に人は来ていただけているのかなと。

**【委員長】**

そうですね。

**【大野委員】**

差引してプラスということですか。

**【事務局（中村）】**

そうです。

**【委員長】**

200人減って400人増えているので、差引きすると200人増えていると。そんな感じなんですよ。

**【事務局（中村）】**

そうです。

**【大野委員】**

これ両方で調べているからわかるんですよ。片方だけで調べていると、す

ごいプラスなのかよくわかりませんが。そういうことですか。わかりました。

**【高崎委員】**

歩行者と自転車の通行者は、一体で調査しているのか。歩く人と、(自転車を)乗っている人も引いている人も含めて。

**【事務局（中村）】**

調査は一体でやっていますが、カウントは歩行者と自転車と分けて計測し、歩行者と自転車の通行量の合計を評価値としています。

**【委員長】**

調査は土曜日にやっているの、通学自転車というか、それはあまり入っていないですよ。通学・通勤とか。なので、むしろ回遊性というか。仕事や通学の上で来ている人ではない人が、10,000人いるということですね。市街地内が空洞化していないから変動しておらず、多少増えている。中心性が高まっていると。

続いて「実施過程の評価」、よろしいですか。お願いします。

－ 説明省略（実施過程の評価） －

**【委員長】**

続きで、「効果発現要因の整理」もお願いします。

－ 説明省略（効果発現要因の整理） －

**【大野委員】**

1つよろしいですか。

**【委員長】**

どうぞ。

**【大野委員】**

(資料No.3の)スライド35、公園のところの指標1から3までの関係なんですが、公園の整備が指標1の駅周辺の利便性に貢献したということですよ。



### 【委員長】

間接的にね。

### 【大野委員】

けれども、指標2「歩行者及び自転車通行量」には関係していないということですよ。でも公園の利用が増えれば、そこへ行くまでの通行量は増えるように思うんですけども。そもそも公園の評価のところ、利用者数というのが指標としてなかったの、そういうことかなと思ったのですが。赤坂では訪問者数がどれだけ増えたかというのが指標になっていて、これは、公園の利用者数が指標になっていないのがまず疑問だったのですが。そこがここに関係してくるということですか。

### 【事務局（中村）】

公園の整備の評価に関しまして、まず指標1「駅周辺利便性満足度」につきましては、公園の環境がよくなったということは、住みやすいというか、そういったまじになったというところで、周辺地区の住民や来訪者の方の満足度に貢献しているのではないのかということで、間接的に貢献しているという評価をしております。

また、指標2「歩行者及び自転車通行量」につきましては、先生のおっしゃられるとおり、公園が整備されれば来ている人が増えているのではないかと、いうところはあるんですけど、そういう追い方の計測をしておりませんので、(通行者の方々が)公園に行かれたかどうかを把握していない中、評価できるのかというところで、評価自体が難しいと考えまして、関連性はなしという整理をしております。

別で、公園に関しましては、指標3「地区内公園の利便性満足度」というものを定めていますので、こちらにつきましては、もちろん公園の整備が直接関係してきますので、直接貢献しているという評価をしております。

### 【大野委員】

指標3はそのものズバリですのでいいんですけど。

そもそも公園の整備の目的は何ですかといったときに、その利用者の「快適性」というものを増しますよということですから、ちょっと違うのかなと。(指標1が)「駅周辺快適性満足度」だったらいいのかなと。例えば、駅の周辺でお弁当を食べるのに公園があったから便利だと、そういう意味だったらいいんですけど、今の話ですと「快適性」のような気がして。要するに、公園整備の目

的とこの指標というのがちょっと違うのかなという印象を受けた、というコメントです。

#### 【事務局（渋谷）】

実は内部の庁内検討会でも、この公園の扱いに関しては揉めまして、やっぱり議論が分かれたんです。指標1・2には関係するのかなと。間接的には弱冠貢献しているのかなと揉めたのですが。大垣公園のような公園ではないものですから、そうしたときに、どうかなということ意見が分かれたんですが、間接的には影響しているのかなと揉めに揉めて、指標1の方で間接的に貢献ということで整理させていただいております。それはおかしいということであれば、関連はなしとして「-」という評価になるのかなと。

#### 【大野委員】

公園の中で、ブランコとかすべり台を整備されたとありましたよね。それは、そこで遊んでくださいということをしているわけですから、どうぞ来てくださいと。ですから、（評価するならば）指標2かなと。来る人が多くなったとか来やすくなったとか。「利便性」というと、お弁当が食べられるとか休憩ができるとか、そういうことだと、ベンチが整備されているとか水飲み場が整備されたからとか。

#### 【委員長】

指標1に「○」を打っているものは「-」ってことですね。指標の評価として「○」を打つなら、指標2ではないかということですよ。

#### 【大野委員】

私の意見はそれです。

#### 【委員長】

あるいは、指標1「-」、指標2「-」、指標3「◎」という評価にしてもいい。それもありますよね。

#### 【事務局（渋谷）】

そうですね。

#### 【委員長】

公園の内部整備だから、近所に住んでいる人とか町内会の人がここに子どもを遊ばせに連れてくるということだから、自転車通行量とか歩行者の通行量の指標2になじまないということであれば、指標1「－」、指標2「－」ということになる。

**【高崎委員】**

満足度をとったアンケートは、公園を使った人とかに限定して調査したわけではなくて、広くとっているんですよ。

**【事務局（中村）】**

そうです。

**【大野委員】**

あと、災害時の避難場所として安心感が増したということもありますよね。

**【事務局（中村）】**

先生がおっしゃられる、「利便性」ではなく「快適性」というところがあるのかなと思うんですが、公園整備では憩いの創出という意味合いが強くなるのかというところで、「快適性」というものも含めた従前の設定・評価をさせていただいており、言葉に表れていないところがありますが、そういった観点も含めて評価をさせていただいています。

**【高崎委員】**

利便性満足度のアンケートの評価では、大人ばかりで、子どもの評価というものは入っていないんですよ。

**【事務局（中村）】**

アンケートに関しましては、「10代」から「60代以上」までとっています。

**【高崎委員】**

「10代」が入っているんですね。

**【事務局（中村）】**

回答者に年齢制限は設けておりません。

アンケートに関しましては、「10代」から「60代以上」ということで、広く回

答をいただいております。「10代」の方の回答が一番低いという現状はあるんですが。今回のアンケートで一番多かったのは、「60代以上」の方で、全体の約3割を占めております。他の年代（「20代」から「50代」）は、それぞれ約2割弱という回答になっております。「10代」以外の方には、幅広く答えていただいております。

**【大野委員】**

「利便性」という単語に、「快適性」とか「安心感」というような意味合いが含まれていれば、いいのかなと思います。

指標の名称を変えるということはできないんですよ。

**【事務局（中村）】**

それはできません。

**【大野委員】**

そうですね。でしたら、「利便性」という単語にこういう意味合いが含まれているという解釈をするということ。

**【事務局（渋谷）】**

事務局としても、今回の評価が絶対だということはないものですから、先程も申しましたように庁内でも揉めたところですので、委員の皆さんの中で、違和感があるということで評価を変えた方がいいということであれば、私どもも素直に受け止めたいなと思っております。

**【委員長】**

指標1については「－」ですね。

指標2については、歩行者及び自転車通行量に関連してれば評価をするということですね。

**【事務局（宮内）】**

指標1と2の評価の入れ替えというイメージですかね。

**【大野委員】**

利用というものを前提に整備されたのであれば、そういう評価になると思う。

**【委員長】**

そういうことにしましょう。

大垣駅南街区広場整備の評価は、指標1「空欄」、指標2「空欄」、指標3「－」となっているが、将来的にはどうなるの。

**【事務局（中村）】**

「空欄」ですが、工事未完了かつ事業が指標に関連すると思っているものでして、事業が完了していないので評価ができないというなかで、評価区分にはないのですが「空欄」という整理をしております。

**【委員長】**

「空欄」という整理はいいんですか。

**【事務局（宮内）】**

評価のしようがないので、どういう評価にすればいいのかという答えが無いなか、この形でいかせていただきたく思っております。

**【委員長】**

未完了ということであれば、評価のしようはないですね。

**【事務局（宮内）】**

事後評価のやり方に関しても、国の方で大分やり方を変えてきていますので、現状このままでいかせていただきたいのですが、（国との協議の中で）今後どうなるのかということは、今は答えが言えない状況です。

**【委員長】**

事業が完了すれば、指標1も2も直接的に貢献という「◎」に相当しますよね。

**【事務局（宮内）】**

そのように考えております。

**【委員長】**

道路については、指標1・2ともに「◎」という評価だが、水門川橋梁修景整備は指標1・2ともに「○」となっているが、理由は。道路関係とみれば、

同じように「◎」でもいいかと思うが、事務局ではそういう意見はなかったのか。

**【事務局（宮内）】**

橋を通りやすくするために整備したものであれば「◎」でいいかと思うんですが、橋の周りの植栽の整備ですので、直接的に貢献ということまではいえないのではないかということで、「○」という評価をしております。

**【委員長】**

インフラではないということですね。わかりました。

（資料No.3の）スライド37、（目標達成度の）評価が「○」となっているのはどうして。

**【事務局（中村）】**

こちらの評価は、（資料No.3の）スライド25の評価区分による評価となります。（資料No.3の）スライド34の評価の基準とは異なるものとなりますので。

**【委員長】**

わかりました。ご発言よろしいですか。

では、続いて、「事後評価原案の公表の妥当性」をお願いします。

－説明省略（事後評価原案の公表の妥当性）－

**【委員長】**

3番目の「商店街がもっと元気になってほしい。」という意見、わかるけど、他のところだともっとシニア化、シルバー化が進んでいるけど、大垣の場合は落ち込んではいないというか。元気になっているとは思わないけど、落ち込み度合いが低いという意味では、地方としての商店街として存続できているというのは元気なのではないのか。駅周辺のところで、人口規模が7・8万人のところはもっとシャッター通り化している。それに比べると、商店街として（大垣は）機能していると思ったんですけど。

**【事務局（中村）】**

先生に評価していただいてありがたいところではあるんですが、こちらは意見として回答された方がどのように思っているのかをそのまま載せている形に

なりますので。

**【委員長】**

昔の全店舗が開いてほしいという気持ちはわかるんですが。そういう意味ということですよ。

**【事務局（宮内）】**

他の名古屋の大須の商店街とかをみられて回答されたのか、昔の繁栄していたときを知っている方が回答されたのか、どのような思いで回答されたのかまではちょっとわからないですね。

**【委員長】**

元気だと、今日見てきたんですけど。

**【事務局（宮内）】**

そう言っただけだとありがたいのですが。

**【大野委員】**

これは集約されて4件なのか、全体として4件だったのか。

**【事務局（中村）】**

回答者数としてはこれより多いですが、集約して、本項目の意見として回答された方が4件ということです。

**【大野委員】**

わかりました。

**【委員長】**

ここで一区切りですか。

**【事務局（中村）】**

そうです。

**【大野委員】**

ちなみに意見として書かれなかった方は、事後評価原案に関する項目に満足

はされているという理解でいいですよ。

**【事務局（中村）】**

そうです。他の項目で、そのような評価を回答する項目を選択式で設けてお  
りまして、意見提出の無かった方にも「満足」・「やや満足」という評価をいた  
だいております。

**【委員長】**

今日駅に行ってみたんですが、（駅の）下りのエスカレーターの効果はすごく  
あるように思ったのですが。

**【高崎委員】**

ありますね。私も利用しています。

**【委員長】**

階段を利用されるよりも、効果がすごくありますよね。そういう意味で、指  
標1「駅周辺利便性満足度」というのは、すごくできているように思います。  
それでは実務的にやるとすればどこをやることになりますか。様式2ですか。

**【事務局（中村）】**

そうですね。資料No.4の様式2の20ページを埋めていただくことになります。  
参考資料として、過年度の事後評価の審議結果を付けておりますので、こちら  
も参考にさせていただければと思います。

**【委員長】**

よろしいですか。

まずは、小項目のところで「方法書」ですが、『「方法書」に従って適正に実  
施されたことが確認された』、ということ。

次に「成果の評価」では、アンケートの総数の話がありましたね。その点を  
意見として付けるかどうかですね。いかがでしょうか。意見を付すことが問題  
だということはないんでしょう。

**【事務局（中村）】**

問題ございません。

「成果の評価」については、数値目標としては達成しておりますので、「その



他」という項目に、ご指摘の内容を記載させていただいてもいいのかなと思っています。

#### 【事務局（宮内）】

アンケートの総数について絶対数が足りないという指摘があったという意見を、「その他」として、内容を記載させていただいてもいいのかなと。

#### 【委員長】

それでは、「成果の評価」としては、「適正に実施されたことが確認された」という記載にしましょう。

「実施過程の評価」も同様に「適正に実施」ということで。

「効果発現要因の整理」については、先程話があった「－」にするのかというところで、指標1と2の評価の入れ替えという。

#### 【事務局（中村）】

そうですね。公園の評価に関して、指標1と2の評価を入れ替えるべきという指摘があった、というような記載をさせていただきます。

#### 【委員長】

「事後評価原案の公表の妥当性」については、「適正に実施」ということで。そして、「その他」ということで、アンケートの母数の話を。

「事後評価の手続きは妥当に進められた、委員会の確認」については「妥当である」と。

以上で、第1の柱の「事後評価手続き等にかかる審議」は終わります。

続きまして、第2の柱である「今後のまちづくりにかかる審議」について説明をお願いします。

### －説明省略（今後のまちづくり方策・フォローアップ）－

#### 【委員長】

いかがですか。

（資料No.3の）スライド40のところは、今まで議論してきたので、記載内容に異論があるかないかの確認ということになるのかと思います。次にそれを持続されるという点で、スライド41のところですね。持続を図る事項として3点あり、効果を持続させるための基本的な考え方、想定される事業の記載がある

のですが、ご意見があれば伺います。

### 【大野委員】

ピントが外れているかもしれませんが、効果の持続を図る事項の「交流と憩いの場の維持管理・創出」という「維持管理」というものを誰がやるのかということ。今回整備されたところというのは、地区の公園とか橋の修景、エスカレーターは別ですが、そういう地区の公園の維持管理というのは地元任せるという方法もあるのかなと思います。例えば草取りとかゴミ拾いとか、そういうものを地域に任せて、そこでコミュニティの活性化を図ると。だから、市が全部お膳立てして、整備から維持管理までするのではなく、ある程度地元というか、その地域に維持管理を任せるということもあるのかなと思うのですが、それは想定されているのか。

### 【事務局（宮内）】

今のところそのような想定はなく、市役所の方で維持管理をしていこうということで記載しています。先生がおっしゃられることも当然かと思うのですが。

### 【委員長】

そもそもそれは可能なかどうかという問題があって、整備されたところが全て都市公園法指定の公園なんです。今いう児童公園ではないんです。町内会や自治会の公園ではないんですよ。だから、都市公園法指定の公園でボランティア的なものはいいんですけど。そうか、指定管理で出せばいいのか。

### 【事務局（宮内）】

大きなハードの整備をするのは当然市役所かと思うのですが、（大野）先生がおっしゃってみえるのは、草をむしったりとか、ゴミを拾いましょうとか、そういうイメージかと。

### 【事務局（渋谷）】

自治会活動って、大垣ではいろんなところでやっております、公園の整備は別として、地元で憩いの場的な部分があると、積極的な自治会は、子どもも含めて、いろいろやったりしておりますので、そういった動きはあります。（そういう面で）地元が自らやるということに対して、市が止めるということは絶対ありませんので、そういうことが芽生えてくると、自然とコミュニティも含めて、いいのかなと思うんですけど。

**【委員長】**

県もやっていますよね。特定者指名だから、地元の自治会の指定管理として出すことはできますね。

**【事務局（宮内）】**

それは可能ですね。なかなかハードルはありますけど。

**【委員長】**

そうすると自主管理というか。

**【大野委員】**

アドプト・プログラムという制度がありますよね。養子縁組をするという。ここはこの地域の人で管理してという。ある町の委員会に行ったときに、あるお年寄りが、「そんな草刈りぐらい、時間のある年寄りがいっぱいいるから任せてくれればタダでやる、喜んでやるから、そんな税金使って業者に頼んでやらなくてもいい」と言われ、そうかなと思って。

**【事務局（渋谷）】**

別の会議でも似たような話で、堤防も含めて草刈りがあるんですが、今の地元の要望というのは、逆にどんどんやってくれる人が減っていっていると。

**【大野委員】**

そうなんですか。

**【事務局（渋谷）】**

そうなんです。高齢化という問題もありますし、人口減少という部分もあるのかと思いますし、地区によっても違うかと思うんですが、逆に言えば、今まで地元でやっていたけど市にもう少し手助けしてもらいたいという意見が、大きな声として今挙がっているのも事実ですので、地元でいかに地域主体でやっていただくかということは、市として大きな課題として捉えている。

**【高崎委員】**

やっぱり公園というのは、今までの形と違って、地域ごとで子どもとお年寄りがマッチングできるようなことが必要になってくると思う。

ハード的な整備計画の事後評価ですが、今後のまちづくりの点で意見があるんですが、水門橋の下、ゴミがいっぱいあったけど、秋のまつりの後には綺麗になっていた。これは住民参加です、新聞に出ていました。綺麗にされているというニュースが。素晴らしい。しょっちゅうやるというのは大変ですが、(住民参加が)芽生えているまちだなと思いました。

また、イベントが素晴らしい。視覚的にですが、十万石まつりとか、毎週ぐらい、駅前とかですごい仕掛けを、ソフト的な話ですみませんが、一体的にまちづくりをされている。住民が動いてくれているという形になっており、それが見えておるところかと思うんですが、今後のまちづくりではさらに住民参加型というものを進めてもらいたい。地域ごとでは温度差はあるのかもしれませんが、やっぱりそれが今後のキーワードになっていくのかと思いますので、住民参加型のまちづくりということをより一層進めていくことが大事なかなと思います。

### 【委員長】

そうですね。「市民協働」というものを1つの理念として考え方に入れて、その実行の仕方が、指定管理という制度の活用やボランティアの活性化をもって実行するという、やり方は複数かと思いますが、考え方の中に「市民協働」をいれておかないと、事業につながっていかないのかなと。

### 【高崎委員】

一番大事なことですね。

### 【委員長】

あと、(効果の持続を図る事項の)1つ目の「中心市街地の賑わい」のところの(基本的な考え方の)2つ目のところで、「～空き店舗に出店する事業者等への支援～」ということで、リフレッシュ事業で出店者募集みたいなイメージかと思うんですが、多くの店舗・商店街で今問題になっているのは、事業者の後継者。家族で息子とか娘が継いできたものだから、黒字でも後継者がいないために閉鎖するんですね。政府も今度税制改正をやるんですけど、そういう事業継承する後継者に対する相続税とか贈与税等々の税制上の優遇措置。儲かっても黒字でも閉鎖する、商店街はこの問題にぶつかるんです。だから、新規の店舗に対する助成という事業はあっていいけれども、事業継承という問題に対する事業を入れておかないと、開店よりも閉店が増えていく。特に多くのところでは、昔商店街の中心にあった呉服屋とか、黒字でも閉鎖をしていく。だから、

経営難で店舗を撤退するというのはまだ抑制できていると思うけれども。

### 【事務局（渋谷）】

後継者っていうのはやはりすごく難しい問題ですよ。やっぱり商売人さんっていうのは仕事の大変さをわかってみえますから、息子に継がせるのはという思いもあれば、既に働いているからとか、いろいろな問題があつて。

### 【委員長】

それで、例えば、ラーメン屋からラーメン屋、呉服屋から呉服屋というときに、呉服屋として営業する全くの他人を紹介していく。例えば呉服屋を購入してやろうとすると5千万円かかるけれども、事業者として継いでくれるのなら、3千万円で売りますよと、差額は市が補填しますよと。事業継承の仕方を、世襲ではなくて、1クッション置いた事業継承の仕方というものを、日本全体が考える必要がある。そういう発想があまり無くて、シャッターが閉まっているのでそれを開くために、ここに店を開きませんかという勧誘事業をやりますと、そういうイメージでしょう。ちょっと違うかなと思うんですよ。勧誘してもいいけど、事業継承という観点がありません。空き店舗対策事業としてやっているの、黒字店舗対策事業のようなものを。

### 【事務局（宮内）】

なかなか難しいですね。

### 【委員長】

考え方とかですごく必要だと思いますね。

### 【事務局（渋谷）】

空き店舗にならないための施策というのは、一部やっている部分はあるんですけど、それと空き店舗になると、それが負の連鎖ではないですけど、どんどん増えていくというようなこともありますので、そこをなんとか埋めるような、今のところその2本立てみたいな感じです。

### 【大野委員】

後継者問題への対応という。後継者問題への支援。

**【委員長】**

別で必要だと思いますけど。

**【事務局（渋谷）】**

具体的にそれを打つ施策が。

**【事務局（宮内）】**

想定される事業のところで、おっしゃられることはよくわかるんですが、連動する事業がなかなか。

**【委員長】**

膨らませる必要があると思いますよ。要するに、事業継承するためのマッチングということも、閉店前のマッチングという、そこが大切だよということですよ。これは閉店したもののマッチングという話ですから、そこはちょっと違うのかなと、意見として。

もう1つ、観光客の話なんですけど、インバウンド事業という問題。これからシニアやシルバー化したりするので、東海地域も含めてインバウンドというものを意識すると思うんですよ。そのときに、宣伝媒体の仕方も工夫する必要があります。日本人じゃないし、SNSを使って宣伝するような時代になっています。それから、多くのところでは、観光振興ということで英語版のメニューを作ったりしていますが、それは無意味だよということ。要はピクトグラフ。絵を見て、これが食べたい、あれが食べたいという、指差しで十分。それがあれば、商店街のお店も十分対応できて、わざわざ店の店主に英語のレッスンや中国語のレッスンをしてもらっても仕方がない。ホテルなんかでは、多様な相談に乗る必要があるから、中国人には中国語で対応というようなことが必要となるので、（語学の）訓練が必要ですけど、飲食店に行ってお店の人と話し込むなんてことはないんだから、注文しているときに対応できればいいと、そういうことだと思うんですけど。

あと、これから求められるのは、イスラム系の方への対応。豚肉は使っていません、使っています、というような表示をしっかりとしないと、食べさせられたと訴えられますから。だから、インバウンドというのはそういうものにしっかりと対応すれば大丈夫だと思うんですけど。そういう問題意識があまりないように思えたんですけど。それをもう少し検討していく必要があるのかなと。

**【事務局（中村）】**

ただ今頂戴しましたご意見につきましては、（資料No.4の20ページの）項目に対する意見ということで、お示しさせていただければと思います。

**【委員長】**

「その他」ではなくて「今後のまちづくり方策の作成」の項目のところですか。

**【事務局（中村）】**

そうですね。

**【事務局（宮内）】**

「その他」ですとどうしても意見として弱くなってしまう感じがしますので、ご指摘のありました大きく3点ほどを、こちらの部分でまとめさせていただくということでいかがでしょうか。

**【委員長】**

記載の仕方はどうしようかな。（資料No.3の）スライド40に関しては、残された課題もないですし、事業によって発生した新たな課題もないので、これで確認された。問題はスライド41ですね。持続性という話をしたときに、基本的な考え方や事業について、もう少し深い検討が必要であると、そういうことですよね。こういう問題点があるのではないかという指摘を受けたという。それは、どこに書くの、「その他」に書くの。

**【事務局（中村）】**

「今後のまちづくり方策の作成」の委員会の意見として、箇条書きで記載させていただきます。

**【委員長】**

わかりました。

「フォローアップ」については、達成したんだから必要ない、ということは、これはよろしいですね。

「その他」のところの記載はよろしいですか。

**【事務局（中村）】**

特にないということであれば、それで結構です。

**【委員長】**

「今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認」という、ここに書くのか。

**【事務局（中村）】**

ご意見につきましては、「今後のまちづくり方策の作成」の委員会の意見として記載させていただき、委員会の意見を踏まえて進めるという前提の下で、妥当であったかどうかを確認していただければと思います。

**【委員長】**

なるほど。そういう意見を含めて検討するということね。

**【事務局（中村）】**

そうです。委員会の意見として記載されれば、そのような前提の下で市は検討し進めていくということになりますので。

**【委員長】**

では、そういう記載にさせていただいて。

全体の「その他」は特になしでよろしいですね。

（資料No.4の）21ページの「有識者からの意見聴取」というのは実施される予定はあるんですか。

**【事務局（中村）】**

実施予定はございませんので、全項目「－」とさせていただきます。

**【委員長】**

ということですね。以上で、大垣駅周辺についての議論は終了とさせていただきます。

＜次ページより「中山道赤坂宿周辺地区」の議事録＞



### (3) 中山道赤坂宿周辺地区

#### 【委員長】

それでは、大垣駅周辺地区同様に進めて行きたいと思います。

まず、都市再生整備計画事業の概要説明について、事務局の説明をお願いします。

#### －説明省略（都市再生整備計画事業の概要）－

#### 【委員長】

では、続きで説明をお願いします。

#### －説明省略（事後評価手続き等（方法書～事後評価原案の公表の妥当性））－

#### 【委員長】

わかりました。ここで一旦区切ります。

事業概要と事後評価手続き等の小項目について、説明がありましたので、順次伺っていきたいと思います。

まず（資料No.3の）スライド58の「方法書について」ですが、先程の大垣駅と同様で、「方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された」ということをお願いします。

続きでスライド59からの「成果の評価」についても、問題ないようですね。赤坂の場合は、指標がはっきりしているんですよ。目的ときちっと合っているんで、という感じは受けます。

ちなみに旧清水家住宅はなんであんなに利用者が多くなったの。目標値が1,000人／年度で、評価値が4,000人／年度を超えています。

#### 【事務局（中村）】

まず、従前値の1,000人／年度の考え方なんですけど、地域のまちづくり団体さんがこの地区のまちづくりを考えられる場がないよねと、もちろん来訪者の方の活用も想定はしていたのですが、どちらかというともちづくり団体さんの活用場として利用してもらおうという意味合いが大きかったので、その方々の利用者数を想定し従前値としております。1団体に10人ほどおられましたので、10人×10団体の月100人の利用、また、暖房施設の設置予定がなかったものから、冬季の2カ月ぐらいは開館しないだろうということで、開館を10カ月とし、月100人×10カ月の1,000人／年度という従前値を定めております。実際には、

土・日・祝日のみの開館で、年間通じて開館することとしまして、平成27年度の開館から、4,000人／年度を超える方々に利用していただいております。平成29年度に年間利用者数を推計したところ、4,000人／年度を超える評価値になったということでございます。

**【委員長】**

地域のまちづくりの人たちの会合の場所が、全然なかったということですね。

**【事務局（中村）】**

計画にも記載されているのですが、まちづくり団体さんはいらるだけけれども、郷土愛の醸成が図られていない、（まちづくりを）考える場所がまだ不足しているのではないかとということで、計画が立ち上がっているというところですので、この施設に関してはですね。

**【委員長】**

暖房施設は入れたの。入れてなくても4,000人／年度を超える利用があるの。

**【事務局（宮内）】**

今はあります。元々こちらは歴史的建造物ということで、火気を使ってはいけないということだったので、暖房施設を入れづらいということはあるんですが、エアコンで暖房を確保しまして、今は年間通じて利用できるようになっております。

**【委員長】**

すごくいいことだと思いますね。そうすると、数値の根拠に、平日の利用は含まれているの。

**【事務局（中村）】**

開館は土日・祝日のみとなっております。

**【委員長】**

じゃあ平日は開かないの。

**【事務局（中村）】**

はい。

**【委員長】**

それは地元の要望と合っているの。

**【事務局（宮内）】**

特別にこの日に使用したいよということであれば、文化振興課というところが管理しておりますので、そこと協議して使っていただくと。基本は土日・祝日で使ってくださいということになっています。

あと、まちづくり団体さんがそこで会議する場だけではなくて、まちづくり団体さんが何かイベントをやられて、そこに参加されるお客さんも含めましてこのような数値になっております。会合だけでは、ここまで人数は増えませんので。

**【委員長】**

そういうことですか。

**【大野委員】**

来訪者満足度調査のサンプル数の件は、大垣駅と同様（の指摘）ですね。

**【委員長】**

そうですね。

**【大野委員】**

基本的に、来訪者というのは地区外の人ということですよ。

**【事務局（中村）】**

そうですね。アンケートに関しては、観光施設ですとかイベント、中山道赤坂宿まつりでとっております。市内の他地区というのもあるんですが、他県の方もみえたりとか。

**【大野委員】**

さっきの（大垣駅周辺地区の）「駅周辺の利便性」というのは、だいたい市民の方ですか。

**【事務局（中村）】**

大垣駅周辺地区もイベントなどでアンケートを実施しておりますので、地区外の人もおられます。

**【大野委員】**

そうですね。さっきの満足度と随分違うなと思って。さっきは（45%と）低かったんですが、赤坂は76%と倍ぐらい。

**【委員長】**

そうですね。赤坂のイベントが、歴史や宿場町をテーマにしたりとか、マニアにヒットするというか、好きな人にヒットするようなイベントをやっているからではないでしょうか。地域の単なるまつりよりも、歴史まつりとか宿場なるとかとか、一定のターゲットに絞るような形にはなっているのではないのかなど。

**【事務局（渋谷）】**

そうですね。街並みとかまちにまったく関係ないというような感じではないですね。それを生かした感じですね。

**【委員長】**

そうでしょう。だから、来る人が、単に遊びに来るというよりも、宿場町の雰囲気を楽しむみたいな気持ちで来ているから、マッチングしやすいんじゃないですか。

**【大野委員】**

そもそも興味を持っている人が回答しているから、評価が高いと。

**【事務局（宮内）】**

そこまでの分析はしてありませんが、そうなのかなと。

**【事務局（渋谷）】**

でも逆にがっかりというような意見もありますので、そういう意味では、結果はよかったのかなと。

**【委員長】**

では、「成果の評価」も「実施過程の評価」も「適正に実施されている」とい

うことで。

「効果発現要因の整理」のところで「空欄」があるのは、未完成ということですね。

**【事務局（中村）】**

そうです。大垣駅周辺地区の広場と同様に、中山道案内看板につきましては、事業が未完成かつ指標に影響すると考えているなかで、評価はできないという整理で「空欄」としております。

**【委員長】**

指標との関係は、「◎」か「－」ということになっていますね。

これでよろしいですか、要因の整理について。

(委員より「はい。」の声あり。)

**【委員長】**

「事後評価原案の公表の妥当性」についても妥当ですよ、ホームページでの公表とか。

「事後評価手続き等は妥当に進められたか、委員会の確認」は、「妥当であることを確認した」という記載にしましょうか。

ただし、アンケートについては。

**【事務局（中村）】**

「その他」のところで、大垣駅周辺地区と同様に記載させていただきます。

**【委員長】**

審議事項の「今後のまちづくりについて」、説明をお願いします。

－説明省略（今後のまちづくり方策・フォローアップ）－

**【委員長】**

ここも（大垣駅周辺地区の）公園と同様に、今使われている旧清水家とかにおいても「市民協働」というものを。

僕が担当していた委員会で、市民活動支援助成金でしたっけ。補助金要綱みたいなものを作ったじゃないですか、大垣市で。

**【事務局（渋谷）】**

大垣市全体の市民団体へのということですか。

**【委員長】**

補助金を、例えば町内会を維持するための補助金と、活動団体を育成・確定させていく補助金との2本にして、5、6年前にそういう要綱を自分で作ったんですけど。そのことも思い出しつつ、やっぱりこの、先程あった「市民協働」ですけど、イベントとかそういうものは活動団体が主体的となってやってもらうと。市民にがんばってもらうことが必要なのかなと。

次の回遊性の向上ですが、赤坂だけでがんばってもダメですよ。つまり、中山道という、中山道協議会みたいなもの、要するに広域でという。

**【事務局（宮内）】**

そちらもがんばってはいるんですが、なかなか。

**【事務局（渋谷）】**

中山道とか美濃路とかですね。

**【委員長】**

点でみると、赤坂って何となるので、中山道という線の1つのポイントになっているんだという広報媒体の仕方にしないと。

**【高崎委員】**

歴史っていうのは難しいけれど、流れがありますので、そういうのをPRすると。まつりを見せてもらったときに、やっぱり盛り上がっていて、まちづくりの組織とかも盛り上がっていて素晴らしかった。ここの歴史っていうのは、おっしゃるとおり中山道ですが、古墳ですね。こないだ見せてもらって驚いたのが、子どもさんが石を並べて、それをずっと続けていた。完成するみたいですけど、歴史にみんながどうやって近づいていくのか、工夫してやっていくのかのヒントになる。

**【事務局（渋谷）】**

一応、想定される事業の中に、歴史的・文化的遺産の保全だけでなく活用を記載しております。

### 【高崎委員】

昼飯大塚古墳の話が新聞に出ていたものですから。今後のまちづくりにおいても、こういった取り組みをしてもらいたい。やっぱり化石ですかね。駅を歩いていると、ずっと化石を見ている人がおられましたので。

観光って難しいですね。歴史のルーツをテーマに、やっぱりルーツがはっきりしていると、中山道の連携したまつりですとか、素晴らしい取り組みになると思います。

### 【委員長】

協議会もそうですけど、僕が関与しているものからいうと、例えば、中津川市と恵那市の中山道関連なんですけど、中津川市が作っている案内看板と恵那市が作っている案内看板とのデザインが違うんですよ。だから、ウォーキングで歩くときに一体感がないんですよ。JRのさわやかウォーキングとかをやっているんですけど、一体感がないんですよ。だからそのことを考えると、中山道協議会なら協議会とかで、中津川市まで同じ看板にきなさいとまではいわないけど、垂井町までは一緒の看板になっているとか、もうちょっと工夫が必要かと。関わっている都市で案内があるとか。そのことも含めて協議会で議論しないと。

### 【事務局（渋谷）】

たしかに、ソフト的な連携がメインで、先生おっしゃられたように、ハード的な連携は行政が弱いところですので。

### 【委員長】

それと、赤坂や大垣をみて思うことは、関ヶ原の戦いではないけど、なぜ大垣のところに陣地が最初におかれて、撤退というか退きながら関ヶ原ということがあるなかで、街道の話が出てこないと、単に出くわしたわけではないので。建物や宿の紹介もいいけど、街道の紹介をしないと、特にここのあたりは、位置づけがはっきりしないのではないかと。

### 【事務局（渋谷）】

ストーリーをもたせてということですよ。

### 【大野委員】

そういうことを説明できる案内人を育成する必要がある。観光分野でそれをインタープリターというんですけども、通訳ですね。日本語でもそうですし、外国の方にも。そういうのを地元の人がやる。直接観光客に接するのは地元の人ですから、地元の人のお熱意がないと観光客に伝わらないということと、地元の人だけではお金とかもないですから、そこを行政がしっかりとサポートしたり、企業が入る。官・民・産がちゃんと連携してやるという組織作りですね。

**【事務局（渋谷）】**

それも協働の1つですね、まさしく。

**【委員長】**

ということでしょうか。

(委員より「はい。」の声あり。)

**【委員長】**

「今後のまちづくり方策」については、「市民協働」という意見を。

「フォローアップ」については、達成したから問題ない、ということが確認された。

「その他」のところは特になしとして、「今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認」については、「市民協働」とかの意見を踏まえて進めるという前提の下で妥当であると、そういう整理にさせていただくということでしょうか。

(委員「同意」)

**【委員長】**

では、以上で議題を終了とさせていただきます。